

令和4年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅱ 【 教育内容の充実・強化 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○農業振興に貢献する優れた農業者等を育成するため、県総合計画に沿って経営者マインドの醸成に向けて経営実践プロジェクト学習に取り組み、3年が経過した。園芸学科では対象品目・販売先が絞られ全校生がこの学習に取り組んでいる一方で、農学科ではこれらの体系が整っていない。	○現在実施している経営実践プロジェクト学習について、農学科ではさらに体系を充実させる。	経営実践プロジェクト学習への参加 農学科1年生・4人以上
○農業の現場では、農業所得の向上を目指してドローンや環境制御装置など ICT 技術の導入を推進していることから、学生に新技術等の知識を習得させるため、農機メーカー等と協力して専攻実習の時間に機械の実演会等を実施するなど、カリキュラムに組み入れている。 ○就農・就職した際に GAP 分野でも即戦力となる人材や、将来的には GAP を取り入れた持続的かつ効率的な農場運営で儲かる農業を実現できる農業経営者の育成を目指して、ASIAGAP 基準に沿った教育を行っている。	○新技術や新たな取組に関する知識を習得するためのカリキュラムを充実する。	新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実 実演会開催 延べ10回以上 ASIAGAP の継続認証 3品目 新規認証検討 1品目
○校内ではコミュニケーション力が低い学生、提出物の期限遵守ができないなど社会人として必要な常識が不足している学生が散見される。 ○本県には、農業経営士、本校卒業生等の優れた農業経営者が多く、学生の能力向上のために、この方々の協力を得られる環境にある。	○農業者等との交流により学生のコミュニケーション力を向上させるとともに、社会人としての良識を身につけさせる。	特別講義による学生の能力向上 特別講義開催 延べ5回以上
○行政機関や研究機関からの転入など、教育に関する知識・経験が少なく、学生への対応に慣れていない教職員も多い。	○教職員の教育に関する能力を向上させ、学生指導を円滑に実施する。	職員の能力向上研修への参加 参加職員数 延べ16人
○新型コロナウイルス感染症が一定の周期で流行していることから、感染状況により、学生が卒業または進級に必要な単位を取得するための講義及び実習の実施が懸念される。	○学生が年度内に卒業または進級できるよう、感染防止対策を徹底した上で、感染の状況に対応して学習機会を確保する。	コロナ禍での学習機会の確保 コロナ禍で講義等が未実施となり単位取得ができず留年した学生数 0人

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

(1) 経営実践プロジェクト学習への参加

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
経営実践プロジェクト学習への参加 農学科1年生・4人以上	A	学習には農学科の1年生4人が参加し、2年生5人を加えた計9人が取り組み、目標達成率は100%である。 農学科・畜産学科1年生の専攻実習に特別講義を位置づけ全員が学習できた。さらに、対象品目を4品目追加したことで各コースの学生が主体性を持つよう体系を充実できた。	経営実践プロジェクト学習への取組学生や対象品目が増えたことは評価できる。今後もさらに多くの学生が学習できるよう、推進してほしい。 県施策の方向に合致した取組なので、引き続きPDCAを回しながら改善し、成果を上げることを期待したい。 A評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【充実】経営実践プロジェクト学習の実施 ・生産から、販売を考えた商品設計、営業、納品までの一連の事業活動を学生に体験させる。 対象品目の追加 2品目（農学科） 販売先の新規開拓 1か所（農学科） 特別講義 8回（農学科・園芸学科 各4回） 実需者との商談会（農学科・園芸学科 各1回）	ア 経営実践プロジェクト学習の実施 ・対象品目を4品目追加（農学科） ナシ、ブドウ、ジャガイモ、干し芋 [カンショ] ・新規販売先の開拓のための商談を行ったが、条件が折り合わず契約に至らなかった ・特別講義9回（農学科・畜産学科5回、園芸学科4回） ・実需者との商談会3回（農学科1回、園芸学科2回）	ア 経営実践プロジェクト学習の実施 ・経営者マインドの醸成につながる重要なカリキュラムであり、今後も力点を置いて継続する。 ・専攻実習等の授業内で活動時間を確保し、園芸学科と同様に1・2年生全員で取り組む（農業部）。	・経営実践プロジェクト学習は、経営者マインドの醸成や儲かる農業の実現など、県の施策の方向とも合致しており、今後も力を入れてほしい。 ・取組学生が達成感を得られるよう、さらに推進してほしい。

<p>先進事例研修（商談会等）の実施 1回以上/年</p> <p>イ【継続】農業経営実例による学習 ・農業者等が運営している農場等の見学及び経営状況の学習を実施する。 15か所</p> <p>ウ【充実】就農に役立つ資格取得の促進 ・資格取得に農業簿記を追加し、支援する。 1種類</p>	<p>・新型コロナの感染状況やカリキュラムの都合により、大型商談イベント視察等の先進事例研修は未実施</p> <p>イ 農業経営実例による学習 ・見学先 38ヶ所 (R3:33か所) 内訳：法人経営11、個人経営13、その他14 学科別件数：農学科4、畜産学科10、園芸学科2、研究科22</p> <p>ウ 就農に役立つ資格取得の促進 ・学生に対し、資格取得を積極的に呼びかけたが、学科型の資格合格率は0~30%と低かった。</p> <p>【成果】 ・経営実践プロジェクト学習において、農学科・畜産学科は特別講義を1年生の専攻実習に位置づけた。対象品目を4品目追加したことで各コースの学生が主体性を持つよう体系を充実できた。 ・38か所の経営実例に触れることで、学生の経営に対する意識を向上でき、就農先候補の選定につながった。 ・刈払機、高所作業車など8種類の資格取得で合格率100%となり、就農に役立つ資格を取得している。</p>	<p>・学生が幅広い視野と高度な技術・経営能力を学修できるよう、新型コロナの感染状況を見極めながら先進事例先の訪問等を検討する。</p> <p>イ 農業経営実例による学習 ・引き続き、学生の経営に対する意識向上や就農意識醸成に役立つ先進事例先の訪問等を検討する。</p> <p>ウ 就農に役立つ資格取得の促進 ・今年度、試験当日の欠席者が目立った資格については、目的意識を持たせ、試験申込直前の意向を確認し受験させる。 ・合格率の低かった資格については、十分に勉強するよう対面により個別に助言指導する。</p>	
---	--	---	--

(2) 新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
<p>新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実 実演会開催 延べ10回以上 ASIAGAPの継続認証 3品目 新規認証検討 1品目</p>	B	<p>新技術の実演会は延べ5回開催、ASIAGAPは3品目で継続認証となり、1品目で新規認証を検討した。 実演会回数は昨年度より減少したが、農機メーカー等と連携して開催できた。また、ASIAGAPについては、学生とともに3品目の継続審査の準備を進め、継続認証され、また、新たに園芸部において取組を検討して品目をメロンに決定したことから、総じて80%以上の達成と評価した。</p>	<p>コロナ禍により実演会の実施回数が減少したが、新技術（ICT機器の活用等）は今後ますます重要になるので、引き続き学習の機会を作ってほしい。 3品目でASIAGAPを継続認証できたことは評価できる。 B評価は適当である。</p>

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】ICTなどの最新技術の習得 ・最新かつより有用な技術について学習させるため、関係機関や民間との協力による講義や実習を実施する。 4月~3月、延べ10回</p> <p>イ【継続】GAPの実践による学習機会の確保 ・農学科・畜産学科においては、ASIAGAP [メロン、ネギ、ナシ]の農場運営を本手に、全体でGAPの概念を取り入れた実習を実施する。 認証継続3品目</p>	<p>ア ICTなどの最新技術の習得 ・農機メーカー等と連携した実演会等 4月~10月、延べ6回（農業部5回、園芸部1回） AI養液土耕施肥システム、ドローンによる薬剤散布など</p> <p>イ GAPの実践による学習機会の確保 ・ナシの農薬誤用について訓練を実施 7月 ・校内予備審査を開催し、書類の不備及び実習棟の管理状況を把握 10月</p>	<p>ア ICTなどの最新技術の習得 ・新規予定の加工・業務用キャベツ収穫機の実演、作業体験を開催できなかった。次年度も最新かつ有用な技術を選定のうえ、計画的に農機メーカー等と連携した実演会を実施する。</p> <p>イ GAPの実践による学習機会の確保 ・農学科全体でASIAGAPの概念を取り入れた実習を継続することで、普通作コースでの新規認証取得の機運を高めていく。</p>	<p>・ICTなど最新技術を使った教育を引き続き実施してほしい。</p> <p>・3品目でASIAGAPを継続認証できたことは評価できる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 園芸学科においては、品目の選定など ASIAGAP 新規認証について検討する。 新規認証検討 1 品目 (キュウリ) 	<ul style="list-style-type: none"> 農場運営マニュアルの見直しを進め、廃棄物や農薬の取扱いについて修正 10 月~12 月 12 月に継続審査を受け、継続認証が決定 1 月 品目も含め ASIAGAP 新規認証に向けて検討を開始し、品目をメロンに定め、検討することに決定した。(園芸学科) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画が滞り実演会回数は昨年比で減少したが、最新コンバイン等について学習できた。 継続認証への取組の学習機会を確保することで、学生は GAP の概念を学習できた。園芸学科では取組を検討し、対象品目をメロンに変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> 園芸学科では、メロンでの ASIAGAP 新規認証取得に向けた準備を進める。 	
--	---	--	--

(3) 特別講義による学生の能力向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
特別講義による学生の能力向上 特別講義開催 延べ5回以上	A	特別講義を延べ5回開催し、目標達成率は100%である。 農業者等との交流及び先進的な農業経営者による講話や最近の話題についての講義において、理解度等の目標評価 3.5 以上をクリアしたことで、コミュニケーション力の向上、社会人としての良識を身につけたと判断できる。	開催回数も目標を上回っていること、学生のコミュニケーション力向上のための特別講義を計画どおり実施したことは評価できる。社会人として求められる水準のコミュニケーション能力が身に付くよう、引き続き推進してほしい。 A評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】農業者による教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 見識を高め社会人としての良識を身につけるため、農業経営士、農業法人経営者、女性農業者(女性農業士等)、青年農業士等による特別講義を実施する。 農業部3回、園芸部1回 理解度等を確認するためのアンケート調査を実施する。 5段階評価で3.5以上 <p>イ【継続】コミュニケーション力向上のための教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション力向上について講演を実施する。 農業部1回 理解度等を確認するためのアンケート調査を実施する。 5段階評価で3.5以上 	<p>ア 農業者による教育の実施 (農業部) ※ [] 内はアンケート調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用就農促進講座 2年、研究科 5/17 [理解度4.6、役立つか4.6、意欲の高揚4.4] 雇用就農促進講座 1年 12/12 [理解度4.3、役立つか4.4、意欲の高揚4.3] 農大卒社長に聴く儲かる農業 1・2年、研究科 10/19 [理解度4.6、興味4.5、活用4.5] 鳥獣害、イノシシ害、金融教育 1・2年、研究科 12/19 県内における鳥獣害被害 [理解度3.9、興味3.9、今後の活用4.0] イノシシ害 [理解度4.1、興味4.0、今後の活用4.0] 金融教育 [理解度3.9、興味3.8今後の活用4.0] 農業機械等の安全講習について 1・2年 1/5 (園芸部) 雇用就農促進講座 1・2年生 12/13 <p>イ コミュニケーション力向上のための教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回 1・2年生、研究科 7/8 [農業部] [理解度4.0、興味3.9、活用4.2] 学生が農産物直売所などで対面販売の際、必要な商品知識や接客マナー(挨拶、言葉遣い等)について演習で学習 農業部、園芸部で各1回/月 	<p>ア 農業者による教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も、先進的な農業経営者からの講話や時代に沿ったテーマで、講義を実施する。 学生の変化を確認するため、園芸学科でも理解度等を確認するためのアンケート調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> このまま継続してほしい。農業に限定せず、いろいろな分野の話題を提供してほしい。 視野を広げ、一般的な社会常識を学ぶ上で必要な、農業以外の分野情報提供や、農業外の様々な体験ができる機会を設けてほしい。 <p>・学生のコミュニケーション力は、高い学生と低い学生で大きく差があると感じている。コミュニケーション力は必</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学生が農産物直売所での対面販売等で顧客に説明できるようにするための商品知識や接客 [挨拶、言葉遣い等] について事前学習を実施する。 農業部、園芸部で各1回/月以上 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な農業経営者による講話や最近の話題に関する理解度等は3.8~4.6で、社会人としての良識を身につけることができた。 ・外部講師の模擬面接などを体験したことで、実際の就職面接に活かせるコミュニケーション力を向上できた。 		<p>要なので、是非高める教育を続けてほしい。</p>
---	---	--	-----------------------------

(4) 職員の能力向上研修への参加

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
職員の能力向上研修への参加 参加職員数 延べ16人	A	延べ26人が専門分野等の研修に参加し、目標達成率は100%である。さらに、職員のスキルアップや研修会開催により、学生指導に必要な知識を習得できた。	研修会の開催は計画どおりであり、参加職員数は目標を上回っており評価できる。 学生を指導する上で職員の資質向上は重要なので、今後は、常に新しい情報を入手可能な教育用ICT機器利用(タブレット端末等)について、職員のスキルアップを推進してほしい。A評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】農業大学校指導職員研修計画に基づく研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業安全・大型特殊免許取得研修、(国)農業者研修教育施設指導職員新任者研修など転入職員向け研修に参加する。 延べ6人 ・関東ブロック農業教育施設協議会各担当者研修会[1人]、県普及指導員養成研修[1人]、県専門研修など専門職員向け研修[6人]に参加する。 延べ8人以上 ・管理者等向け研修として、全国農業大学校協議会教育研究会等に参加する。 2人以上 [内容により、今年度は進路指導委員会が該当] <p>イ【継続】校内自主開催による研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生指導・発達障害に関する教職員向け研修会を開催する。 1回、14人以上 ・理解度等を確認するためのアンケート調査を実施する。 5段階評価で3.5以上 	<p>ア 農業大学校指導職員研修計画に基づく研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業安全・大型特殊免許取得研修 [3人 [農3、園0]] ・関東ブロック農業教育施設協議会各担当者研修会 [1人]、県普及指導員養成研修 [1人]、県専門研修など専門職員向け研修 [20人 [農16、園4]] に参加 ・管理者等向け研修として、全国農業大学校協議会教育研究会等に参加 [2人 [農1、園1]] <p>イ 校内自主開催による研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生指導・発達障害に関する教職員向け研修会を1回開催し、農業部及び園芸部の職員10人が参加した[8/25] 講義 [理解度4.3、興味4.3、活用4.1] 演習 [理解度4.3、興味4.1、活用4.3] <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ演習に取り組み、「何度指示しても困難な学生への対応」について理解を深めることができた。 ・大型特殊免許を取得するとともに、専門分野の研修会に参加することで最新の知識を習得できた。 	<p>ア 農業大学校指導職員研修計画に基づく研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、定期人事異動があることから、学生の教育に慣れていない職員のために学生に対する注意や指導の方法についての研修を継続し、助言や指導等、学生への対応に慣れていない部分を補う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内職員向け研修の参加者は目標を上回り評価できる。常に新しい情報を入手しての資質向上は重要である。 ・高校では生徒にタブレット端末を貸与して学習しており、先生も教育用ICT機器のスキルアップに努めている事例もあることから、当校でも取組を推進してほしい。 ・コロナ禍の影響で参加人数が減ったが、研修会の開催回数は計画どおり実施でき、評価できる。

(5) コロナ禍での学習機会の確保

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
コロナ禍で講義等が未実施となり単位取得ができず留年した学生数 0人	A	学生の新型コロナ陽性者が確認される中、迅速かつ適切な対応により拡大を防ぎながら、講義等を実施できたことにより、単位取得に影響はなく、目標達成率は100%である。	コロナ禍の中、先進農業派遣実習が計画どおり実施できたことは評価できる。一部の学生において感染事案があったものの、迅速な対応で収束させ、遠隔授業により着実に単位取得につなげたことは評価できる。A評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア 学習機会の確保に向けた取組</p> <p>(ア)【継続】遠隔授業等の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生全員のパソコン保有状況や自宅のWi-Fi環境、携帯電話番号やメールアドレスを把握する。 4月 ・学生向け操作研修を実施する。 4月、1回 <p>(イ)【継続】遠隔授業を組み込んだカリキュラムの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大により校内で授業ができない場合、実習は講義に振り替えたうえで、遠隔授業により講義のみ実施し、実習は感染拡大が収まってから実施するなど、柔軟にカリキュラムを変更する。 随時 <p>(ウ)【新規】先進農家派遣実習の着実な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先農家及び学生に係る感染等を想定した対応シミュレーションを作成する。 ・派遣先農家における追加受入可能学生数を把握する。 8月 [農業部]、10月 [園芸部]、全農家へ打診 ・感染等確認時の対応等を周知する。 8月 [農業部]、10月 [園芸部]、チラシ配付、実習前電話連絡 ・学生に抗原検査キットを配付する。 8月 [農業部]、10月 [園芸部]、1個/人 <p>イ 感染防止対策の取組</p> <p>(ア)【継続】学生、保護者への対策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の感染者発生時から収束までを連絡する。 随時 <p>(イ)【継続】感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3密回避、マスク着用、手洗い励行 [随時] など、基本ルールを徹底する。 随時 	<p>ア 学習機会の確保に向けた取組</p> <p>(ア)【継続】遠隔授業等の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生全員のパソコン保有状況や自宅のWiFi環境、携帯電話番号やメールアドレスなど遠隔授業に必要な情報を確認した。 農業部4月、園芸部5月 ・学生向け操作研修を実施した。 農業部4月・1回、園芸部5月・1回 <p>(イ)【継続】遠隔授業を組み込んだカリキュラムの変更 (農業部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月、農学科2年内でコロナ感染者が出たが、予定講義10時限分を遠隔授業に振り替えて実施した。実習8時限分については延期して実施、感染の影響を最低限に抑えた。 <p>(ウ)【新規】先進農家派遣実習の着実な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先農家及び学生に係る感染等を想定した対応シミュレーションを作成した。 ・農業部 [8月]、園芸部 [10月] に以下の対応を実施した。 派遣先全農家の追加受入可能学生数を把握した。 感染等確認時の対応等を周知した [チラシ配付、実習前の電話連絡] 学生に抗原検査キットを配付し、実習修了後の登校時に検査することでお互いの安全を確認した。 ・派遣先農家で感染等が生じた場合は、該当する従業員が自宅待機し、学生は抗原検査キットで陰性を確認のうえ派遣先に復帰した。学生側で感染等が生じた場合は、自宅で静養または待機し、所定期間後にキットで陰性を確認のうえ派遣先に復帰することで対応し、実習を着実に実施できた。 <p>イ 感染防止対策の取組</p> <p>(ア)【継続】学生、保護者への対策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での感染者発生 [6/12]、感染者追加 [6/13]、通常授業の再開 [6/17] について周知した。 <p>(イ)【継続】感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式及びオリエンテーション [4/12・13]、始業式 [10/3]、年末の集会 [12/19]、年始の会 [1/5] において対面によりコロナ対策を周知した。 	<p>ア 学習機会の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動制限緩和に応じて取組内容を見直す必要があるが、学生に陽性者が出た場合や県内で陽性者が増加した場合には今年度の取組を基に学習機会の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても先進農家派遣実習を計画どおり実施できたことは評価できる。 ・一部の学生において感染事案があったものの、迅速な対応で収束させ、遠隔授業により着実に単位取得につなげたことは評価できる。

<ul style="list-style-type: none"> ・非接触自動検温システム機等による検温を実施したうえで、体調の報告を徹底する。 随時 ・感染状況により、教室、食堂、学生寮の利用制限や消毒・清掃を実施する。 随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内で感染者が複数出たことによる注意喚起[6月]、10月下旬から全国の新規感染者数が増加し始めたことから、ワクチン接種推進[11/15]、体調管理報告実施徹底[11/22]、コロナ対策[12/7・19]をWebex（電子メール）により周知した。 ・抗原検査キットの配付 [農業部] 年末集会[12/19]、[園芸部] 夏休み前集会[7/22]、1個/人 ・ワクチン接種の推進[R5. 1. 23時点] 3回目ワクチン接種率 農業部 34人/85人[40%] 園芸部 16人/32人[50%] <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の感染者は出たが、感染防止対策に取り組みながら学習機会の確保することができ、講義等の中止により単位が取得できなかった学生はいない。 		
--	---	--	--